カみま

加美町字長檀75番地2(2667-5411)

平成 26 年 3 月 1 日発行

ともに、竹とわらで作った小屋が勢いよく燃え上がった。 さて、さて今年の作柄は…?。

> 然と農業再発見元年』にしたいもので 孫につなぐため、今年を" 加美町の自

風土文化を子子孫

=柳沢地区

焼け八幡の子どもたち=



「よいさー。 よいさー。 よいさー。」 子どもたちの掛け声と

2014・加美町の 自然と農業再発見元年』に

|願った正月も束の間、米政策の大転換 作が中心の加美町農業にも大きな変革 でその余震がいまだにやまない。水稲 をもたらす初年になるであろうと思わ 穏やかな一年であってほしい。 会長 我孫子 武

の責務と考える。 の町として次世代に継承するのが我々 くのリスクを伴い、現場を混乱させて 大をくい止め、将来にわたり食料産地 |様な経営体の融合で、耕作放棄地の増 |営農、兼業農家、定年帰農といった多 |等による大規模経営体と同時に、 町農業の維持発展のためにも、法人化 を求められる一方、あまりにも農村の いるように思われる。とはいえ、加美 実態を無視した急激な方向転換は、 成長産業化の名の下、強い農業経営

平成 25 年度 家表

農業委員会では、町の農業振興に大きく貢献 された個人を毎年表彰しています。今年は、 の方がその功績を認められ表彰されました。

> 四足のわらじを履き、超多忙な毎日を送っ の3代目、農業短大を卒業後すぐに就農し 合長、さらに、中新田きのこ培養組合長と デンの常務取締役、広原えのきだけ生産組 レンソウ)の経営のほか、侚マッシュガー 千葉さんは、えのきだけを生産する農家 現在は、家業の水稲と施設園芸(ホウ 上多田川上 千 昭 さん(51

基づく品質保証)の認証を受け、 す。「今後は、JGAP(生産工程管理に 世代の仲間と切磋琢磨して来たから」と話 組織がある。「これまで続けられたのは同 より安心して購入していただけるように たい」と語った。 中新田地区には、4つのえのきだけ生産 消費者に



菌茸、水稲、施設野菜経営



水稲、大豆経営で表彰



水稲、大豆、野菜栽培経営で表彰

原 町 坂 哲 郎 さん(1)歳)

する早坂さん。 農組合の組合長として23%の水田を耕作 美町認定農業者として、 また、 原町営

になったという。 学ぶために小岩井農場で3年間研修を積 んだが、途中で呼び戻され家業を継ぐこと 就農のきっかけは薬莱開拓事業。 酪農を

いがやまかな?」と話す。 ない。我々世代がリタイヤする10年後くら 地域より大きいためか法人化の話が進ま 「原町地区の平均耕作面積は25%。 他の

顔であった。 ず、今のままの経営で十分」と、柔和な笑 んには頼もしい後継者がいる。「無理をせ 稲作農家が後継者不足で悩む中、早坂さ

兩永志田 有赤坂開発 代表 畠山照一さん(61歳)

旅行に出かける『おたのしみ会』だった」と 仲間が集まって、 話す畠山代表。 の作業を請負、その賃金で夫婦・親子一緒に 簡赤坂開発の始まりは、 地区の気の合う 土・日を利用して森林組合

と、もう一人の畠山さん。地域の担い手と 終目標は、『人が集まる場所を作る』かな? な仕事もおしゃべりしながらだと楽しい。最 隣の方々のお手伝いをもらっている。「大変 色々取り組んで来たが、現在は、飼料用米、 大豆、加工用キャベツを栽培している。 て益々がんばるお二人でした。 も地域の転作の請負に変わった。転作作物は 平成12年秋に法人を設立し、 現在の構成員は2名。収穫等忙しい時は近 仕事の内容

収穫祭も一緒に楽しみました園児達とさつまいも栽培

宮崎地区 板 垣 文 一宮崎地区 板 垣 文 一宮崎地区 板 垣 文 一

は、委員に植え方を教えてもらっをしましたが、5月の植え付けで私は、賀美石幼稚園のお手伝い

跡が非常に印象的でした。土を抑えた紅葉のような小さな手のを掘り、苗を置いて土を掛けました。た子どもたちが、自分の手で畝に穴

こ。と共に家族の話題と食材になりまし家に持ち帰り、その楽しかった体験り出していました。収穫された芋はり、目を輝かせながら次々と芋を掘り、目を輝かせながら次々と芋を掘りでは、土の中から芋へり月の芋掘りでは、土の中から芋へり

に楽しい一時を過ごしました。招待をいただき、子どもたちと一緒つき大会が行われ、私達担当委員もまた、12月には、収穫感謝のもち

委員会では、このような体験活動 を通して、食や農に関心を持った子 かが地産地消される加美町の農業が 物が地産地消される加美町の農業が さらに活性化されることを目指し、 として今後も続けていきたいと思い として今後も続けていきたいと思い として今後も続けていきたいと思い





恒例

「男の料理教室」「例

開催

男の料理教室に参加して

小野田地区 板垣

平

今回で2回目の参加です。多少ためらいがありました今回で2回目の参加です。多少ためらいがありました。グループごとに食生活改か消えていました。グループごとに食生活改か消えていました。グループごとに食生活改か消えていました。グループごとに食生活改らなく、笑いながらも一生懸命です。結果美ちなく、笑いながらも一生懸命です。エプロが、いざ教室に入ればためらいがありましたくことができました。



提出しました。関する意見書を環境大臣あて最終処分場建設候補地選定において、放射性指定廃棄物のおいて、放射性指定廃棄物のでは、東北地方環境事務所に2月3日、加美町農業委員会

野農政委員長) 務代理、高橋農地委員長、今務代理、高橋農地委員長、三浦職

平成25年1月から12月までに 締結(公告)された賃貸借におけ る賃借料水準(10~当たり)は、 以下のとおりとなっております。

農業政 され、 ました。 の農業政

策」

が転換されます。

4 年 町

の基幹作物である「水田

現在経営安定対策が見直

策

が制定・

改正されて来

後

 \mathcal{O}

減

反廃止

は近年にない大改革

きではないかと考えます

であると思います。

æ	(水稲) の部		(平成26年 1 月)			
締結(ク	(告)された地域名	支払方法	平均額	最高額	最低額	データ数
中新田地区	基盤整備地域	金納	18,400円	20,000円	18,000円	19
		物納	69kg	69kg	69kg	1
	未整備地域	金納	14,300円	18,000円	10,000円	104
		物納	68kg	96kg	58kg	24
小野田	基盤整備地域	金納	14,300円	18,000円	14,000円	100
		物納	75kg	95kg	56kg	40
地 区	未整備地域	金納	12,400円	18,000円	6,500円	19
	人歪曲地块	物納	75kg	123kg	42kg	59
	基盤整備地域	金納	13,300円	18,000円	10,000円	101
宮崎		物納	0kg	0kg	0kg	0
地 区	未整備地域	金納	13,200円	18,000円	6,500円	86
		物納	78kg	91kg	58kg	51
加美町平均		金納	13,900円			429
		物納	75kg			175

畑(普通畑)の部

締結(公告)された地域名	平均額	最高額	最低額	データ数		
中新田地区全域	2,000円	2,000円	2,000円	1		
小野田地区全域	4,200円	6,000円	3,000円	5		
宮 崎 地 区全域	們	0円	們	0		
加 美 町平均	3,833円					
**ニーク粉は、生乳に用いた多数でもで						

タ数は、集計に用いた筆数である。

6

金額は、算出結果を四捨五入し100円単位としている。

加加 中新田地区 美町の農業に 角田憲太郎

先般、

しょう。 これまで数多く いて』考えてみま

の風評被害はもちろん、 衰退も大いに懸念されます。 つとして発表しました。 将来の農業 農作 物等

題に、 って、 途上であります。 法人化が進まず、 TPP加入目前の今、 農業委員会・農業者一体とな 真剣に議論を重ね取り 多くの集落は延長 山積する困難な課 集落農業の 組 むべ

定廃棄物最終処分場建設候補 環境省が、 加美町を放射性 地の

女性農業委員が綴る づれ

だ

よ

4

と「緊張」を失っていくうちに出てくるものです。生きる ならもう手遅れかも…? うでないものがあります。 ボケは、 「最近物忘れが…」と気になる方、 自分と他人の関わり合いの中で、「生き甲斐」 さっき食べた食事を忘れるよう 加齢によるものとそ・

日記を付けたり手紙を書く

ケを予防します。では、

ボケないための習慣作りを…

- 気力を失ってはボケます。 「何くそ」と打開する気力がボ

めに大切なことです。 を促します。 晩にはその日一日の行動を思い出すことで脳の活性化 日記は脳の記憶機能を刺激します。朝予定を確認し、 過去に書いたものを読むこともボケないた

散歩をする

を取りながら散歩を楽しみましょう。 体調の悪い時、 暑い日、 寒い日、 雨の日は避け、 休憩

新聞や本を読む癖をつける

抜いたり、 文字は脳を活性化します。声を出して読んだり、 暗記するのも大変良いです 切り

料理上手はボケない

4

しょう。 男性で10種類、女性で30種類以上作れるようにしま

人と会い、社会と交わる

めに行動するなど、楽しく笑って過ごす生活がボケ防 になるそうです。 自分の趣味やできることで、ボランティアなど人の

Ш

畠

Ш 明

美

 \parallel

副委員長 委 員 編

小 澁 尾 畠 近 板 出 Ш 田 垣 谷 文 幸 弘 明 利 京 悦 子 美 樹

聞購読のお願い

7.200円) 月600円 年間

- 週刊紙の特性を生かして、様々な問題をじっくり・鋭く・分かりやすく
- 地方発の身近な話題が「みやぎ版」・「東北版」に掲載

お問い合わせ 農業委員会事務局 (☎ 67-5411)